

承認	会長	書記	書記	事務局長

議事録

第5回常任理事会（教育長との懇談会）を開催しましたのでその内容を報告致します。

平成30年1月29日

松阪市自治会連合会 事務局

日時	平成30年1月19日（金） 10:30～12:00	場所	松阪市市民活動センター 会議室
参加者	小山、山本、田上、小藪、伊藤、三室、中西、岡田、表 以上9名 教育委員会：中田教育長、松名瀬局長、山本、青木、有瀧、萬濃、高尾 以上7名 地域づくり連携課1名、事務局1名		
<p>◎司会進行・・・事務局：西岡</p> <p>I. 会長挨拶・・・小山利郎</p> <p>II. 教育長挨拶・・・中田雅喜</p> <p>III. 自己紹介・・・資料による</p> <p>IV. 懇談</p> <p>1. 児童、生徒の学力の実態と学力向上にむけての取組について</p> <p>◆萬濃学校支援課長より説明。懇談会資料1～4ページ参照。</p> <p>三室会長： 「宣長さんの5つの教え」は、いつ頃から始まり、どれくらい定着しているのか。</p> <p>萬濃課長： ・「宣長さんの5つの教え」は3年目。 ・宣長さんの教えより「5つのチャレンジ」を作成。より良い生活習慣・学習習慣の確立を目指す。 ・教室に掲示し、いつでも目に着くようにしている。 ・各学校の経営方針、各教員の学級の経営方針の柱としている。</p> <p>三室会長： ・二宮金次郎像のように、本居宣長像は学校に置いてあるのか。本居さんの言葉は小学生に難しくないのか。スマホの件、時間を決める事は難しくない。 ・「家の業 なおこたりそね」とあるが難しい言葉が子どもに通じるか。本居さんは家業を継がず、医者になった。その事を生徒に指摘されないか。</p> <p>萬濃課長： ・本居宣長は第一小にあり。 市議会でも質問があったが、二宮金次郎像は全ての学校にない。 ・スマホについては、県の事業で保護者と参加する「スマホ使用についてのルール作り」講習会などを開催している。アンケート調査をし、その結果を授業で話し合い、さらにアンケートを取って改善していくという粘り強い取り組みをしている。三雲、嬉野地域ではPTA自ら「スマホのルール」作りに関するパンフ等を作り問題に取り組み始めた。 ・確かに言葉は難しい。中身をかみくだいて、子どもに発達段階に応じて対応。 ・4年前に宣長さんについての冊子を作成。エピソードを踏まえながら、本居さんについて</p>			

て学ぶ。全国各地に偉人はいるが、大抵はその偉人出身の校区のみで、松阪市の様に市全体で学ぶのは珍しい。

三室会長：

教師が本居さんの事について、何でも答えられるように、先生用の教材を作り、勉強をしてほしい。

萬濃課長：

既に教師用の指導用冊子も作成し、夏休みに冊子を使った「実践交流会」を開催、意見を交流、高め合い、吸収しながら改善を行っている。

山本会長：

小学校 36 校、中学校 11 校の中で、学力に差があるのか。

萬濃課長：

差はある。中学校区単位で課題解決の取り組みを大切にしている。

田上会長：

小学校では平均正答率を上回っているのに、中学校では平均正答率以下。原因は？スマホの使用時間が全国平均以上である事と関連しているのか。

萬濃課長：

小学校では全ての教科を担当が受け持つので、課題に対しての共通意識が持ちやすいが、中学校は教科で教師が異なるので、課題に対しての共通意識が持ちにくくなる。各教科で共通して「目当て」と「振り返り」を大切に授業を行っている。スマホの使用時間と学力については関連性があるとの調査結果あり。改善する必要がある。

2. 児童生徒の問題行動等の実態と解消にむけた取組について

◆萬濃課長から説明。懇談会資料 5～8 ページ参照。

萬濃課長：

(1) いじめ

- ・認知件数が過去最多 ➡ 先生目が行き届いた証拠。「どんな小さい事でも見逃さない」という姿勢で取り組む。
- ・アンケート調査（学期に 1 回以上）による把握、相談がしやすい環境づくりを行っている。アンケート調査からの発見が一番多い。「いじめは許されない」という雰囲気を高めていきたい。実態を把握し、未然防止、早期発見、早期対応に努める。

(2) 不登校

- ・「中一ギャップ」による不登校はH27年度と比較すると、28年度は減少した。
- ・不登校の要因 ➡ （順に）家庭関係、友人関係、学業の不振。
- ・年間 60 日までの欠席が一番多い。
- ・スクールカウンセラー（県から派遣）、ハートケア相談員（市から派遣）を配置。養護教員と情報を共有。家庭訪問など行う。

(3) 暴力行為

- ・H19年～減少している。落ち着いた中で学校生活を送れている。

三室会長：

不登校の定義とは。

萬濃課長：

病気以外の理由で 30 日以上休んだ場合、不登校となる。

田上会長：

不登校になる原因に、「対先生との関係」もあると思う。そこも見つめてもらいたい。

萬濃課長：

不登校の理由の一つに「教職員との関係」がある。内容は進路、クラブ活動の事。担任に相談するのが難しいのであれば、同じ学年のほかの教諭やクラブ活動の教諭、擁護教

員、ハートケア相談員等に相談できるよう、より多くの大人が関わられるように対応している。

中田教育長：

- ・教師の力量を高めるために、様々な研修等を行っている。
- ・教師の言葉がどう子どもに響いているのか、どう傷つけているのか、教師は真摯に向き合わなくてはいけない。それを聞ける謙虚な姿勢を作らなければならない。
- ・いじめはどこにでもある。ただ、私たち教育者は「0」にしていきたい。解決のできない永遠のテーマであったとしても、いじめを無くしていく努力をしっかりとしていきたい。教師だけの力では無理。福祉や地域の力が要る。

3. 学校の適正規模についての現状と今後の課題について

◆有瀧課長（学校教育課）より説明。懇談会資料9～12ページ参照。

有瀧課長：

小規模特認校として、香肌小学校、宮前小学校、飯高中学校を指定。「広報まつさか」やHP上でPR、今年秋に現地説明会を行った。数件の問い合わせ、参加者があったが、入学・転入はなし。

小林会長（飯高、欠席のため西岡事務局長が代読）：

転入がないという事であるが、もっとPRしてほしい。また、不登校の生徒の配慮として、受入口になるような流れを作ってはいかがか。

中田教育長：

- ・「学校規模の適正化」は全国的に大きな議論となっている。
- ・大江中の問題。
地域の声を聞きながら、丁寧に地域の中に入り、問題解決に向けて進めている。
- ・大江中は少人数でありながらも素晴らしい教育をされている学校。ぜひ、残していきたいが、ある一定数より生徒数が減ると、先生の数の制限が発生するので、きめ細かい教育が出来なくなる。また、クラブ活動など、ある程度の生徒数が必要な場合がある。
⇒小規模校と中規模校との交流学习により、問題解決を図りたい。
- ・地域に愛着を持つ事が大切。飯南高校が県外生徒を受け入れる事ができる学校に指定される予定。飯南高校、飯南中学、飯高中学、小学校を含めて、コミュニティスクールとして、一緒にやっていきたい。小学校から高校まで一貫した教育が受けられる。特認校の魅力になる。県外から来た子どもを地域で受け取っていただけるよう検討していただけたらどうか。
- ・松阪で生まれ、松阪で教育を受けた子どもたちが、自分の子どもや孫にも松阪で教育を受けさせたいと思うような教育を行いたい。それには地域の協力が不可欠。ご協力をお願いします。
- ・学校規模の統廃合よりも、教育内容の充実と、その学校の良さをPRしていきたい。
- ・今度の改定される学習要領で、「カリキュラムマネジメント」として学校長がある程度のマネジメントができるようになった。学校の特色を出しながら、「小規模特認校制度」を地域と一緒にやっていきたい。何らかの形で「小規模特認校」の本当の良さを出していきたい。「小規模特認校」が制度としてあるのではなくて、各学校が必要に応じて「小規模特認校」を必要とするならば、推していきたい。

田上会長：

住宅地の造成等で生徒数が増えた場合、校舎を増築する対応をとられているが、生徒数が増えるのは一時的な現象。ほかの学校の空教室を利用するなど、増築以外に臨機応変的な対応策はないのか。

中田教育長：

空き教室の活用の仕方については、地域と話し合っていきたい。

コミュニティスクールについて。地域の方が学校の中で存在感があり、その存在感が子どもたちの教育に寄与していくようなシステムを考えていきたい。

増築する事なく、他の学校の空き教室を活用するのは、いろんな問題があり非常にハードルが高い。が、いろんな事をチャレンジしたり工夫したり検討したりするのは、当然しなくてはならない事。

天白小学校では、生徒数の急増により教室が足らなくなった際、地域の方の力を借りて、ランチルームに図書館を作った。この結果、本の貸し出しが以前より多くなった。

4. 学校の設備関係及び休（廃）校の利活用について

◆青木課長（教育総務課）より説明。資料 13～15 ページ参照。

青木課長：

- ・空調設備については、学校間で導入時の差が出ないように合併特例債を利用して、30、31年度の2年間で導入していく。
- ・トイレの洋式化については、現在の洋式化率 30%⇒60%に引き上げる。避難所になる体育館についても、洋式化を進めていく。合併特例債を有効に活用して、30、31年度の2年間で工事していきたい。
- ・休校中の学校については、地域に地域活動の場として、活用してもらっている。
- ・廃校になった旧飯高中学校については、地域密着型介護老人福祉施設が建設される予定。

表会長（射和）：

新聞で多気中学校の開校時期について、1年延びるとの報道があったが、本当か。

中田教育長：

合併特例債の、期限が延びそうだ（決定ではない）。合併特例債の期限が決まっている中で進めていくのが合意事項であった。期限が延びたら、より良いものを作るという観点で、余裕がありますねという事。プレゼンで見たが、素晴らしい学校であった。

子どもたちは多くの時間を学校で過ごす。エアコンの設置、トイレの改修は長年の悲願であった。小山会長には大変ご尽力いただいた。費用対効果、予算面だけではなく、子どもたちの観点、子どもたちの健康面の事を言っていた。より良いものにさせていただく。環境を整えるのは教育委員会の使命。

小山会長：

この件については、特例債の限られた時間の中で設定をせねばならず、担当職員さんに大変ご苦労かけた。敬意を表したい。

5. その他

小山会長：

中日新聞で土曜授業が半減になるとの記事を見た。土曜授業の一部は、地域との交流に使われていたが、減ってしまうのか。また、学力の低下につながらないか。

中田教育長：

病気休暇を取る教職員が増え、教職員の働き方改革が進んだ。土曜授業を開催した場合、同一週で振休を取らなくてはならない。子ども達が学校にいるのに、休む事はできない。松阪市は土曜教室を地域の力を借りて、8回（最大）で行っている。振休の代わりとして、夏休みの一定期間、完全に学校を閉めている。

県の指導もあり、土曜授業を減らす。また、土曜授業があるため第三土曜日は、地域の事業ができないとの意見もあった。土曜授業に地域との交流に充てる、広げる。土曜授業が減ったために地域との密接な繋がりが無くなる事は、絶対にならないようにしていきたい。

山本会長（橋西）：

松阪公民館の移転の件。今まで歩いて松阪公民館に通っていた方のために第一小学校の教室を一部開放したのに、今は駐車場の確保について問題になっている。

歩いて通っていた人が既得権をかざして、いろんな事を要求しすぎる。教育委員会の最初の不手際はあるが、それで何もかも言いなりになってはいけない、との意見もある事を知ってほしい。返事は要りません。

V. お礼の挨拶・・・小山利郎

以上